

音が聞こえるほどにガーンときた

音が聞こえるほどにガーンときた
ただ激しすぎる思い込みだった
考えていたことは絶対正しいと
信じて疑わないようになってた

広くみれる力を
持ち合わせていたなら
凝り固まらないで
目線合わせできただろう

これが一番いいことだと思っていた

面倒な人には成りたくないと
思っていたけれどいつの間にか
自分だけの感情に任せて
物事進める人になってた

ひと息いれるゆとりを
持ち合わせていたなら
独りよがりではなく
周りの声聞けただろう

これが一番いいことだと思っていた

冬の庭先で

冬の庭先では緑も無くなって
地面の土の色が黒ずみ目立つ

枝だけになったバラの
足元スズランの枯れ葉
抜けずに残っていた
茶色がちになって

今ではすっかり何もなくなり
やがてくる春に備えるよ
あたたかく土の中かくれてる
誰にも気づかれないように

冬の庭先の
門扉さわれないほど冷たい
ねじカバーに隠れてた
アリたちもどこに

球根を残して
高砂百合早くから消えてた
コンクリートに挟まれた
わずかな土の中

今ではすっかり何もなくなり
やがてくる春に備えるよ
あたたかく土の中待ってる
誰にも気づかれないように

古都の雪

赤いから傘 雪降るまち
少ない訪れる人
焦茶色の木造の間
着物で歩く後ろ姿みえる

随分前の儂い記憶突然
よみがえり苦しくなる
二十歳を過ぎた時
別れたばかりのこと
鮮明に思い出す
昨日のこのように

積もらない雪それでも激しく
冷たい風に吹かれて
焦茶色の木造の下
竹やらいがこの目に染みる

随分前の儂い記憶突然
よみがえり苦しくなる
あの時このように
一人で歩いた道
はっきり思い出す
昨日のこのように

冬至を過ぎたなら

冬至を過ぎたなら
毎日少しずつだけ
昼が長くなることで
春に向かう気がする
そしてあと少し最後のひと頑張り
面倒なことも年と共に忘れよう

いつものことながら
これから昇り始める
だんだんに良くなる
勇気づけられるひととき

冬至を過ぎても
まだまださらに寒くなる
緩むことだけ気を付けて
崩れないように
そして今年も無事に終われるように
とりなす気持ちも新たにスタートだ

いつものことながら
これから昇り始める
だんだんに良くなる
勇気づけられるひととき

025

今朝のニュースで
原発の運転禁止命令解除聞いた

あれはちょうど40年前
建設中の新潟 幾度となく
1泊2日を通ったこと思い出す

駅の周りも人が少なく
ほとんどは缶ビールだけで
夜を過ごした 今はなくなった
ビジネスホテルで

そこで働く人たち
みんな一つの寮に家族と別れたまま

訪ねた部屋で見せてもらうアルバム
そこに写る家族との何気ない姿が
大切にしている暮らしがわかる

まれに繰り出す夜の街では
そこに住んでる人たちの
温もりを感じる
また行ける時があるのだろうか

もう無理

どうすることもできない
思うようにいかない
何をすればいいのか
わからなくなってしまう

もう無理 このままこれ以上は
ここまでのかたちにとらわれてる
たとえ自分だけが変わったとしても
周りを変えることはムツカシイ

潰れてしまうことより
いったん引くしかない
情けなくなることで
しばらくガマンするだけ

追い詰められたこの世界で
あるべき姿も見えてきた
その理想を失わず
やり直す勇気欲しい

もう無理 このままこれ以上は
自分の世界にこもってしまう
だけど自分だけのことでなくて
関わる人たちと共にしないと

知らないうちできる壁
近寄りがたいモノに
情けない姿かくす感情が無意識に

追い詰められたこの世界で
後ろ向きな思い気づいた
その自分と向き合って
やり直す勇気欲しい